

チューリップ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
早生種	-----			□						○	-----	
中生種	-----				□					○	-----	
晩生種	-----					□				○	-----	

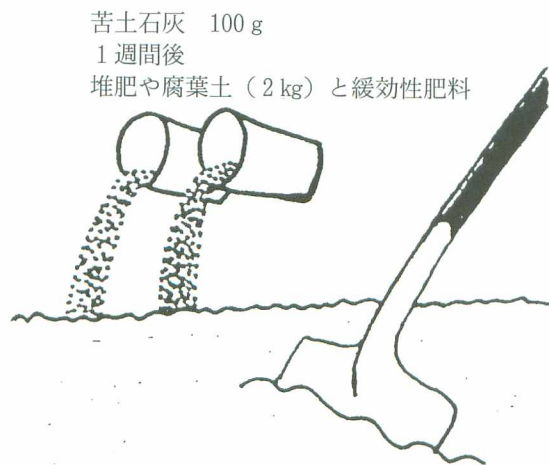
球根の選び方

ずっしりと重く、外側の皮につやのある球根を選ぶ。アオカビが生えていたり、へこみのある球根は、病気にかかっているおそれがある。また、球根の底に傷のあるものは根が生えない可能性があるののでさけたほうがよい。

土づくり

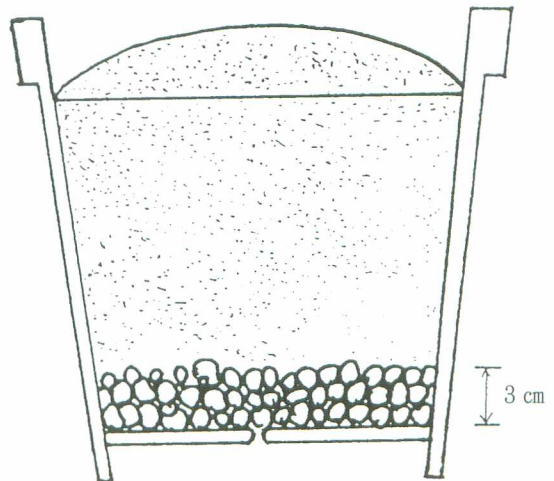
・花だん栽培

日当たり水はけの良い場所で、植え付けの10日から2週間くらい前に表土がうっすらと白くなるくらい苦土石灰（1㎡あたり100g程度）を散布し、よく混ぜておき、その1週間後くらいに堆肥や腐葉土などの有機質（1㎡あたり2kg程度）と緩効性の肥料を混ぜる。



・鉢栽培

水はけが良く、水もちの良い用土を用いる。花だん栽培と同様に土づくりを行う。鉢の底にゴロ土（粒の大きな土）を3cmくらい入れてから、用土を入れる。

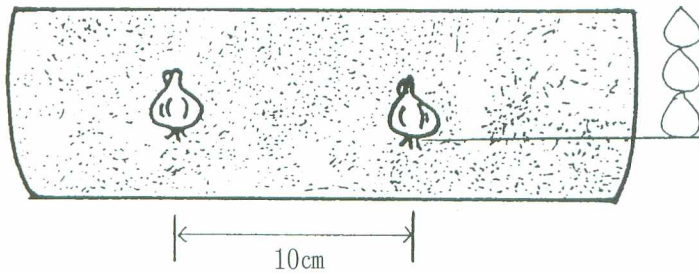


植え付け

10月頃が植え付けの適期

・花だん栽培

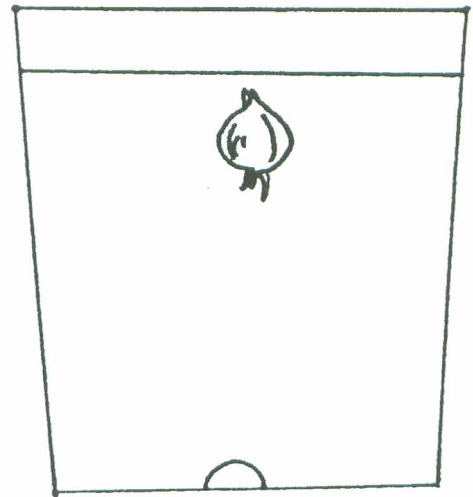
植え付けの深さは球根の高さの3倍くらい。
植え付けの間隔は10×10cmくらい。



・鉢栽培

植え付けの深さは球根の頭がかくれるくらい。5号鉢（鉢の口の直径が約15cm）なら1～3球植え付ける。

植え付けたら、必ず外においておく。（チューリップは冬の寒さにあたらないと花が咲かない。）



開花までの管理

チューリップのふるさとは、夏は乾燥して、冬に雨の多い地域。秋から冬にかけて伸ばした根が枯れないように、土の表面が乾いたらたっぷり水をやる。

また、霜柱がたつような地域では、腐葉土やピートモス、落ち葉などを厚くかぶせておく。

花後の管理 球根の養成

花が咲き終わったら、花首から折る。配合肥料などを与えて、葉が黄色く枯れるのを待つ。6月に入り、葉が黄色く枯れてきたら球根を傷つけないようにていねいに掘り上げる。

日陰で1週間ほど乾かしてから、分球して風通しの良い日陰で次の植え付けまで保管する。